



老後資金2000万円問題 ～人生100年時代の錯覚～

2016年6月、金融庁は、人生100年時代を見据えた資産形成を促す報告書を発表した。長寿によって定年退職した後の人生が延びるために95歳まで生きるには、夫婦で約2000万円の金融資産の取り崩しが必要となるという試算を示したわけだ。が、各所から批判を浴びて、その後撤回するという珍事だったわけだが…。これは安倍政権の『人生100年時代構想会議』なるものの中で発せられた、『人口動態からすれば2007年に生まれた子の約50%が（なんと！）107歳まで生きる』という予測があったがためだった。つまり、現在60歳あたりの我々が100歳まで生き延びるという話ではない。ただ、この後の寿命の延長のために、今の年金受給に関してもどんどん改悪は続けられている。年金だけでは老後に2000万円は不足するという試算も、国民全体がみんなそうだというわけではない。統計からすれば、現在65～69歳世帯の金融資産（預金・債権・株式・保険など）は、実は2252万円もあるというのが相場だそうだ。（みんな金持ちやなあ…。）男女ともに単身者世帯でも1500万円もっているという。つまり約半分以上の人は2000万円貯金を持っており、実際に老後資金が不足すると考えられるのは国民年金を受給する人たちであって、『足りない人の分は国が面倒を見てあげる』と宣言すれば良いだけなんじゃない？って気がする。

ところが、人生100年…っと言ったところ、30歳代以上の各世代の62～64%がその老後生活を悲観的にとらえ、そして『100歳まで生きたいか？』という問いには、80%の人が『生きたくない』と答えている。理由は老後の生活が不安だからが筆頭。というより、90歳くらいにもなればボケ散らかして、家族に迷惑かけるわ、世間様に顔向けできないやら、認知機能がおおよそ心配で、楽しくもないだろうという気がしてならない。（でも、ゴルフ場にはめっちゃめっちゃお元気な86歳の大先輩が何人もおられる…ああ、あれば良いのだが、自信はない）

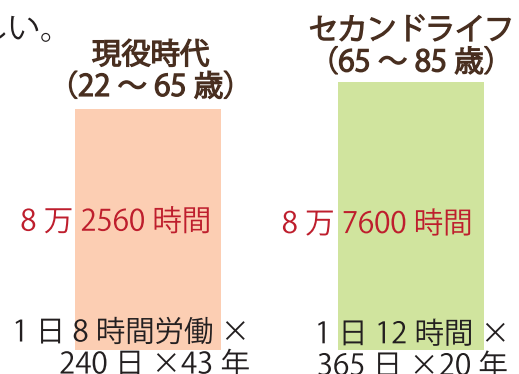


低欲望化した今の日本では、金利をほぼゼロにしても借りることも無く、預金は増え続ける一方だ。2001年の統計によれば、銀行の貸出金と国民預金は約500兆円で拮抗していた。2021年には、貸出が546兆円に対して、預金（現金）は906兆円、家計金融資産（現金に株式や債券を合わせた額）はとうとう2000兆円に到達した。安倍黒政策でバンバンお金を刷った結果だったが、低欲望社会ではまるで資金需要は増えなかったというわけである。そして、統計上では今の日本人は一人3500万円を握って死んでいっているらしい。お上としては、900兆円もあるストックを投資や消費にフローさせ、株価を活性化させたいつもりだったろうが、岸田政権に至っては金融所得課税強化（20%を30%に）相続税・贈与税一本化など口走って、財務省の収奪癖の手にありそうだ。

こうしてみると、日本人は長寿におびえ、老後資金の備えに汲汲としている。全くリタイアを楽しみ、ゆっくりと好きなことをして過ごすという発想から遠い。無理もない、若いときはモーレツに働き週末はくたびれ切って、貯金にいそむ。人生これからだという高齢者になった時、大した趣味もなく人生の楽しみ方ということが分からない人が多いらしい。

60歳あたりだと新しいことを始めるのが億劫だ。

こう計算してみると、リタイア後の時間の長さを観れば、セカンドライフで何をするか、若いうちから十分に準備しておかねばならない問題な気がする。かく言う私も、ゴルフくらいか…。次号の
に続く…。



おうち時間と環境の救世主!? コンポスのすすめ

皆様、こちらの写真は何に見えますでしょうか？お散歩用のトートバッグ？いえいえ。実はこちらは『コンポスト（堆肥をつくる容器）』なのです。

日本の家庭からはなんと年間1000万トンもの生ごみがでていたといわれています。コロナ禍でおうち時間が増えている今、その量はさらに増加しており、「コロナ禍で外食が減った影響で、野菜クズなどの生ごみも増えた。ごみ減量の工夫を知りたい。」と考える人も増えているようです。

そんな悩みを解決してくれるアイテムとして今、いろいろなテレビや雑誌に取り上げられて注目されているのが、こちらの「LFC コンポスト」です。そんな悩みを解決してくれるアイテムとして今、いろいろなテレビや雑誌に取り上げられて注目されているのが、こちらの「LFC コンポスト」です。



バッグ型コンポスト

生ごみ処理といえば従来は数万円と高価な生ごみ処理機や、畑設置型コンポストが一般的でした。一方、この「LFC コンポスト」は3,300円程で始められ、①オシャレ（生ごみが入っているとかわからない）、②電気が必要ない③コンパクトサイズ④サッと混ぜるだけ。マンションのベランダでも手軽に始められるため、20代～40代女性の間で人気が高まっているそうです。我が家でも「これだったら使える!」と、早速ポチリ（購入）。使い始めてみました。



使い方は、まず専用のバッグにもう一枚袋を入れ、その中に生ごみを分解するための基材を入れます。準備はこれだけで、あとは雨のかからない屋外に置き、生ごみを入れて軽く混ぜるだけです。気になる臭いは生ごみの内容や手入れにもよりますが、私が使用している限りはほとんどありませんでした。

約2か月生ごみを入れた後は、2～3週間熟成させて堆肥にします。出来上がった栄養たっぷりの堆肥は家庭菜園やベランダガーデニングに使用できるので、堆肥で育てた野菜を食べる・・・ということも可能に。お子様のいるご家庭では食育にもなりますね。

実際に使ってみるとごみ処理の手段としてだけでなく、日々変化する生ごみの様子を観察したり、できた堆肥で花を育てたり、と楽しみが増えたように思います。「マイナス」なイメージのものから「プラス」の感情を生んでくれるこのバッグは、見た目以上に素敵なもののようです。



コロナの後に、『嗅覚復活ビール』

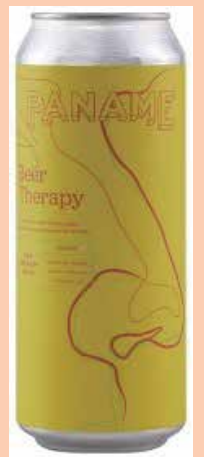


風邪で鼻が詰まったときに、味が分かりづらくなった経験があると思います。人は舌で感じる「味覚」だけでなく、鼻で感じる「嗅覚」と合わせて「味」を認識しています。新型コロナウイルスに罹患した20代、30代のおよそ7割、50代以上でも4割の人が嗅覚障害を発症しており、大半は数週間以内に回復しますが、半年以上も症状が続く人もいるとのこと。美味しいものを食べても美味しいと感じられないなんてつらいですね。

海外ではコロナで嗅覚障害を発症した人が嗅覚を早く取り戻すための匂いを嗅ぐトレーニング（嗅覚再訓練セラピー）があるそうです。方法は決められた4種類の香りを1日2回、10秒間嗅ぐだけ。これを一定期間続けると68%の人が早期に嗅覚を復活できたそうです。

何でもおしゃれに楽しむフランスでは、嗅覚トレーニングもおしゃれにアレンジ。トロピカルフルーツやレモングラスを加えて超アロマティックにした『嗅覚復活ビール』でトレーニング。価格は、500ml入りで日本円にして1,015円ほどとかなりお高め。

飲み方は、①グラスにビールを注ぐ、②20秒間香りを深く吸い込む、③香りが何を表しているかに集中する、④じっくり味わって飲む。この動作を定期的にトレーニングするだけです。まるでソムリエがワインをテイastingするような優雅な飲み方。というか、単にビールを味わって飲んでいるだけです。でも、おしゃれな超アロマティックビールは嗅覚が戻ったときに美味しいと感じられるのか肝心の味が気になります。



アロマティックビール

編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。気温も徐々に上がり、過ごしやすくなってきましたね。お出かけしたい気分させる季節ですが、まだまだコロナ感染者数は予断を許さない状況です。季節の変わり目でございますので、感染症対策には抜かりなく、皆様ご自愛くださいませ。黒木

